～つながる県南　広がる実践　すべては子どもたちのため～

県南教育事務所
教　育　情　報

南 nanpu 風

令和６年 12 月 17 日（火）
No. 11【 通巻 第 232 号 】
文責 ： 教務課指導班

令和6年度ブラッシュアップ事業　授業改善研修会（小学校 外国語・外国語活動）

授業力ブラッシュアップ研修会は、学習指導要領の趣旨や内容等に基づいた指導改善を図るため、モデル授業の提案を中心とした授業改善研修会を通して、教員の一層の授業改善・充実の促進に資することを目的に行われています。今号は、11月7日に奥州市立水沢南小学校で行われた小学校 外国語・外国語活動の研修会について紹介します。

◆◆◆部会テーマ◆◆◆

小学校外国語活動・外国語における言語活動を通した資質・能力の育成
～小中連携の充実に向けて～

◆◆◆授業の視点◆◆◆

（１）資質・能力を育成するための言語活動を通した単元の構想
（２）思考・判断を伴い、使いながら定着させる言語活動の設定
（３）児童生徒の思いや考えを相手に伝える、即興のやり取り

～ブラッシュアップメンバー～
授業者　奥州市立水沢南小学校
　　髙　橋　　歩　教諭
支援員　奥州市立田原小学校
　　舞　田　啓　悟　教諭
支援員　奥州市立水沢南中学校
　　小野寺　理　沙　教諭

授業の様子から

■　８月に交流した留学生に、日本のことをもっと知ってもらうために、おすすめの都道府県を紹介するという単元のゴールを設定し、目的意識・相手意識を高める授業であった。

■　水沢南中学校と連携を図り、前単元でスピーチ動画を２年生に見てもらって、アドバイスや感想をいただいた。その際のアドバイスも参考にしながら発表の練習に取り組ませることで、児童の意欲の高まりにつながっていた。

■　タブレットで発表を録画して見合わせることで、さらにどんな工夫が必要かを考え、表現を高めようとする児童の姿が見られた。

研究協議での話題から

■　児童が伝えたいという思いをもちながら言語活動に取り組めるようにするためにも、単元のゴールを明確にすることが大切である。そして、必然性のある言語活動とすることが大切である。

■　ペアやＡＬＴの見本など、手立てが組まれたことで、即興のやりとりの力が身に付いていくと感じた。

■　学習活動を通した児童生徒による小中の連携も有効である。

講義・演習から学んだこと

「言語活動を通して資質・能力を育成する授業づくり」　　県南教育事務所　越戸　利江　指導主事

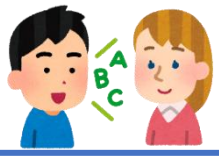
■　外国語活動や外国語科における言語活動は、「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味しており、目的や場面、状況などを明確にして、「伝えたい」、「聞きたい」と思えるようにすることが大切であること。アウトプットとインプットが同時にできるような言語活動を行っていくことが大切であること。

■　ＩＣＴを日常的に使えるようにし、どの子どもも自分に合った学習スタイルで進めていけるようにしていかなければならないこと。

■　間違えても大丈夫ということを教師がロールモデルとして示し、コミュニケーションの楽しさを味わわせることが必要であること。

■　小中連携においては、ＣＡＮ－ＤＯリストの共有が大切になってくること。

授業改善に向けて

【研修者の声（一部抜粋）】

- **毎月の職員会議で外国語指導について、情報を提供する場があるので、今回の研修で得たことを伝えていきたい。**
- **自分の授業スタイルを変えるよい機会になった。**
- **中間指導で、内容面、言語面のどちらに重きを置くかは、単元の中で吟味しながらゴールに向かうために必要なところを扱っていきたい。**
- **コミュニケーションの意義と楽しさを伝えることができる授業にしていきたい。**